

指定管理者評価シート

事業名	札幌市あかしあ学園管理業務	所管課(電話番号)	保障がい保健福祉部障がい福祉課(211-2938)
-----	---------------	-----------	---------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市あかしあ学園	所在地	札幌市東区北17条東5丁目2-1
開設時期	昭和60年6月1日	延床面積	923.22㎡
目的	利用する方が「社会生活・職場生活などそれぞれの生活の場で社会的に自立できるよう援助すること」を目的とする		
事業概要	生活介護事業・就労継続支援B型事業		
主要施設	作業室、静養室、相談室、食堂、職員室、資材室、利用者更衣室、利用者休憩室		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人 北海道社会福祉事業団		
指定期間	令和5年(2023年)4月1日～令和10年(2029年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由: 管理期間中の管理が良好に行われていると認められたことから、札幌市障害者福祉施設条例第13条第2項の規定に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	統括管理、施設、設備の維持及び管理、事業の計画及び実施、施設の利用等に関する業務		
3 評価単位	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価			
1 業務の要求水準達成度						
(1)統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定		A	B	C	D
	さっぽろ障がい者プラン2024に掲げられている「障がいのある人もない人も、市民誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現」という基本理念のもと、計画目標の一つである「地域生活を支えるためのサービス提供基盤の一層の充実」「公共の施設として透明性の高い管理運営」の達成に向けて、家族や地域住民、関係機関等のニーズに応え、関係性がより良好になるように運営に努めた。 また、設置目的である「社会生活・職場生活などそれぞれの生活の場で社会的に自立できるよう援助すること」を念頭に置き、「利用者のニーズをしっかりと受け止めた個別支援計画の作成」をし、利用者の日常生活と社会生活能力、働く意欲と技能の向上に努めた。 さらに、それに基づき「自己決定能力や自己選択能力を向上して自己実現を果たす」という方針を策定した。	さっぽろ障がい者プラン2024の計画目標や札幌市あかしあ学園の設置目的を基本とする方針を策定し、利用者個々人のニーズに合わせ個別支援計画を作成して、それに沿った自己決定、自己実現を目指すサービスの提供ができた。 運営協議会で運営における基本方針を説明し、家族や関係者の理解を図った。	・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。 ・高等養護学校からの職場実習、大学や短期大学、専門学校からの保育実習の受け入れ、家族、学校関係者からの施設利用の相談や見学に積極的に対応している点は評価できる。			

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

札幌市あかしあ学園管理業務仕様書において平等利用の確保に向けて方針を策定し、以下の内容の取り組みを実施した。

- ・当法人で策定した「倫理綱領」の読み合わせを毎月の学園会議で行い、利用者支援の基本方針についての意識醸成を図った。
- ・毎朝夕の打合せの中で、「虐待予防の重点目標」や「虐待予防の取組みチェック」を定期的に内容を変更しながら職員全員で確認する事で、利用者の人権に配慮しつつ適切な支援が行えるように注意喚起し、業務日誌にも記録した。
- ・利用者権利擁護と苦情に対して、中立・公正な立場で指導を行う機関として、第三者委員を設置、また運営協議会・虐待防止委員会を開催し、利用者の権利擁護に努めた。
- ・半期に一度、学園長及び支援課長は職員に対して虐待防止用のペーパーテストを基に、利用者対応や仕事に対しての悩み等について定期的な面談を行った。
- ・札幌、市あかしあ学園の新規利用を希望する方が、平等、公平に利用できるように利用検討委員会を設置し、受け入れに向けた検討協議、決定を行った。
- ・高等養護学校からの現場実習、大学や短期大学、専門学校からのソーシャルワーク実習、基礎保育実習のできる限りの受け入れを行った。また、家族、学校関係者からの施設利用の相談や見学についても積極的に受け入れた。
- ・地域の方々の活動の場として、当施設を活用できるように、当事業所を開放し、ボランティア活動の受け入れを行った。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

節電対策について利用者の活動に支障のない範囲で、使用していない場所の消灯の徹底を図った。利用者退勤後は必要最小限の照明で業務を行った。

夏場の空調温度については、熱中症に配慮しつつ、利用者にも協力していただき、適切な温度設定に保っていた。

冬場はエアコンによる暖房を中心に使用し、床暖房や電気暖房器具を補助的に活用し、室温の安定を図るとともに、消費電力の節減に努めた。

できる限りごみはリサイクルに出して減量化に努め、職員の出したごみについては持ち帰りを徹底した。また、空き缶、ペットボトルは業者に出すことで作業収入とした。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

定例会議での法人の倫理綱領の読み合わせや、毎日の打合せで、サービスの向上の重点目標と虐待予防の取り組みの確認を徹底した。また、外部委員を含めた虐待防止委員会の他に、当園内部組織としての虐待防止委員会並びに、身体拘束適正化検討委員会を、それぞれ年2回づつ実施した。

その結果、公平で平等なサービス提供ができた。

市内の高等支援学校生徒・家族の見学及び1名の体験実習を受け入れた。

市内大学、専門学校7校より14名の学生の実習を受け入れた。

ボランティアの受け入れについては、「ふれあいいきいきサロン」や、工芸作業等の受け入れを行った。

札幌市環境マネジメントシステムに基づき適切な管理を行った。職員の私物ごみを各自持ち帰ることで、環境への配慮や経費削減に努めた。

法人の組織図、事業所の職、職務、処務規程で管理者の責任を明確にした。管理者は日常的に活動場面に入ること、支援が利用者に対して適切に行われているか、組織としてスムーズに機能しているか常に確認した。

事業所内においては業務分掌を作成し、それぞれの職員の役割、責任を明確にした。また、提供する福祉サービスの向上のため人事考課制度を導入して人材育成を図った。人事考課を行う管理職については、そのための考課者研修を行った。それぞれの職員のスキルを高めるために、職員研修を事業所内、法人内(階層別等)、外部研修とそのニーズに合わせて実施した。

職員の採用については法人が随時、職員採用試験(登用、新規)を実施して、より広く優秀な人材確保に努め、採用された新規職員に対しては新任研修を実施してその育成に努めた。

当法人処務規程、人事考課規程等を遵守すること、業務分掌に基づいて管理、運営、組織の確立に努めることができた。

職員に対し、支援技術の向上や倫理観の醸成を目的に、法人研修や外部研修に積極的に参加し、事業所においては、正規職員を対象にキャリアデザインシートと個別研修計画を作成し、育成目標を明確にししながら主体的に自己研鑽に励める様に環境を整え、人材育成に努めた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

利用者の個々の状況については、毎日の引き継ぎや打合せ等で職員間で報告・周知を行って情報の共有を図った。

個人のニーズに即した個別支援計画に基づいたサービスが実施できているか担当者会議等で確認し、また管理者やサービス管理責任者が活動状況を直接確認することでより良い支援の提供に努めた。

あかしあ学園諸規程や各種マニュアルに沿って、適切なサービスが行われているか確認し、ヒヤリハット事例等を検証することで必要に応じて、利用者支援や業務の改善、マニュアル化を行い管理水準の維持・向上に努めた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

消防の設備点検、エレベーターの保守点検、機械警備、冬期の避難路、駐車場の除排雪、給食提供等の業務については第三者に委託したが、適切に業務が遂行されていた。

利用者状況の把握については、ケース会議や日頃の打ち合わせ等で状況や対応について情報を共有し、より適切な支援の提供を行った。

今後も継続した取り組みを実施していく。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
2月27日	・施設利用における満足度調査の結果について ・令和6年度 業務運営状況について ・虐待防止に対する取り組み状況について

<協議会メンバー>

札幌市障がい福祉課運営指導係 係長
札幌市東区社会福祉協議会 事務局長
北光地区福祉のまち推進センター 事務局長
札幌市豊明高等支援学校 学校長
札幌市あかしあ学園利用者代表2名
札幌市あかしあ学園利用者家族代表2名
札幌市あかしあ学園 学園長、支援課長、主査

満足度調査の結果や運営状況について報告し、各委員の方々から理解を得ている。

	▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) 資金管理については、日々法人の経理規程にのっとり経理区分毎に経理業務を実施した。管理者が最終チェックを行い、適正な経理業務の遂行に努めた。 また、法人の内部業務監査、会計監査、札幌市の業務検査・財務検査の実施にあたり、適正に対応した。 ▽ 要望・苦情対応 利用者からの苦情や要望については、札幌市あかしあ学園苦情解決取り扱い要項、及びあかしあ学園第三者委員運営要領を策定してその要項等に沿って対応した。 施設内に苦情受付担当者を配置して、利用者や家族等からの苦情や要望に適切に対応する体制を整えた。 運営協議会等でいただいた意見についても、事業運営や活動を進めるうえでの参考にした。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) 日々の利用者の状況はパソコンランディスクにおいて、個別や活動毎に毎日記録した。内容は各担当者が記載して、サービス管理責任者が適時確認した。 個別支援計画の作成については、利用者との面談を通じて課題を整理し、適正なアセスメントに心がけ、利用者個々のストレングスに着目した計画の作成に努めた。作成した個別支援計画については、ケースカンファレンスや年2回のモニタリングを通して、計画に沿った支援が実践できているか検証し、必要に応じて見直しを行った。 業務計画を作成して各活動について具体的に計画をたて、年度末に総括し、事業報告を作成した。 それぞれの情報についてはパソコンネットワークを通してデータ化し職員間で適時共有することができるようにし、日々の打合せや会議等でペーパーレス化を促進しつつ、情報伝達、共有に滞りがないように努めた。 保管については全ての情報を事務室管理として、施錠可能な所定のロッカーにて保管し、事務室についても職員不在時には施錠した。 札幌市による業務検査・財務検査での指摘事項はなかった。	今後も適正な取り組みを継続する。 令和6年度、苦情等の申し立てはなかった。 今後も利用者の権利擁護を遵守し適正な支援に努めていく。 利用者の状況について、日々情報を確認、共有することで、統一した支援を行うことができた。 家族面談の希望集約を実施し、希望者には個別面談を実施した。また、必要性の高いご家族には家庭訪問し、課題解決に向けた助言を行った。各種面談では、本人・家族のニーズの把握の他、家庭での様子の聞き取りを行い、理解を深めた。									
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) 法人が作成している就業規則において、法人内の各事業所で勤務する職員の労働条件や就業規則等を定め、変更になった場合は速やかに届出を行った。 職員のメンタルヘルスについては、研修会参加や日々の職員の状況等把握に努め配慮した。法人として労働安全衛生法に基づき職員に対してストレスチェックを行い、職員自身のストレスの気づき、その対処の支援、職場環境の改善・管理に努めた。	今後も適正な取り組みを継続する。 本年も昨年に引き続き法人としてストレスチェックの取り組みを実施した。	<table border="1"> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr> <td colspan="4">・仕様書に基づき、労働関係法令の遵守等がなされている。</td></tr> </table>	A	B	C	D	・仕様書に基づき、労働関係法令の遵守等がなされている。			
A	B	C	D								
・仕様書に基づき、労働関係法令の遵守等がなされている。											

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) 利用者の安全確保については「危機管理要綱」「リスクマネジメント実施要項」等を定め、利用者が安全に活動に参加できるように配慮した。 防犯については、利用者出勤・退勤時は職員が玄関で見守りを行い、それ以外の時間は、外部からの侵入に備えた対応の徹底を図った。 地域住民によるボランティア活動として、「北光サロン」や「工芸作業」での受け入れを行った。 保険の加入については、社会福祉事業者総合保険に加入して、利用者の不慮の事故等に備えている。 感染症予防のため、各ウイルス・感染症予防のためのマニュアルを策定して、利用者が健康に利用できるように配慮した。また、感染症対策やリスクマネジメント等の研修に参加して、適時、マニュアル等の検証を行った。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) 清掃業務については仕様書で求められる水準に達するように「あかしあ学園清掃計画」に基づき、年2回のワックスかけや大掃除を実施した。 作業活動に伴って排出される段ボールについては資源ごみ回収に出しており、飲み物の缶やペットボトル等はリサイクル業者に出した。 機械警備の関係で、同一の建物内にあるみかほ整肢園とセキュリティ操作や開館時、閉館時の開錠、施錠等協議・連携の上、適切に実施した。利用者等の安全確保のために、建物内外の定期的な見回りを実施して破損箇所等がないかの点検を行った。 ▽ 防災 防災計画を策定して、年4回の消防訓練を実施した。内2回は同一の建物にあるみかほ整肢園との合同避難訓練として実施した。 また、防火管理者を選任して、利用者の安全確保のため防火、防災管理の徹底を図った。	各マニュアルについては、適宜見直しを行い、より適切な対応ができるように留意した。 特に施設の防犯については、外部からの侵入リスクに備え、利用者の出勤・退勤の際は玄関にて職員が見守ることによって安全に配慮した。 今後も要求水準を満たせるように取り組みを継続していく。 今後もみかほ整肢園と連携しながら、防災に対する取り組みを継続する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。											
A	B	C	D																
・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。																			
(4)事業の計画・実施業務	▽ 生活介護事業(定員30名) ▼地域において安定した生活を営む為、介護や日常生活上の支援を行った。 (1)介護 利用者の状況に応じて適切な技術を持って食事・整容・更衣・排泄等生活全般にわたり支援した。 (2)生産活動 軽作業活動を通じて、生活の張りや意欲、達成感が得られ、また作業技能の向上が図れるように支援した。作業では利用者一人一人の適性や意思に応じて配慮を行った。 作業内容としてはパンフレットの封入作業、箱の組み立て作業、お茶漬け等の袋、箱入れ作業等の受託作業、絞り染めを中心とした工芸作業を行った。 工賃の支給については上記の生産活動における事業収入から必要経費を差し引いた額に相当する金額を工賃として、生産活動に従事している利用者に還元した。	作業活動やその他の活動を行う事で、利用者の活動の幅が広がり、安定した生活リズムの構築に努める事ができた。 活動の中で職員と利用者が共に一つの目標に向かって活動する事で、信頼関係の構築を図ることができた。 工芸作業では新製品の開発、販路拡大を行い売り上げの向上に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">・利用者個々人の適性に応じたきめ細かい配慮によりサービスが提供されている点は評価できる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">・就労継続支援B型事業において、積極的に施設外就労支援を行うことにより、利用者の更なる就労意欲、作業技術の向上を図っている点は評価できる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">・社会参加を積極的に行っている点は高く評価でき</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・利用者個々人の適性に応じたきめ細かい配慮によりサービスが提供されている点は評価できる。				・就労継続支援B型事業において、積極的に施設外就労支援を行うことにより、利用者の更なる就労意欲、作業技術の向上を図っている点は評価できる。				・社会参加を積極的に行っている点は高く評価でき			
A	B	C	D																
・利用者個々人の適性に応じたきめ細かい配慮によりサービスが提供されている点は評価できる。																			
・就労継続支援B型事業において、積極的に施設外就労支援を行うことにより、利用者の更なる就労意欲、作業技術の向上を図っている点は評価できる。																			
・社会参加を積極的に行っている点は高く評価でき																			

▼生活活動利用者に対して、作業以外の活動の拡がりを持てるように創作活動や農園活動を提供した。 (1)創作活動 隔週1回実施して、施設内の装飾品や知的障がい福祉協会等が主催する作品展への出品のための製作を行い、作品作りを通して季節感や楽しみを感じたり、目標を持って取り組める内容に留意した。 (2)農園活動 5月から10月まで、敷地内の農園でジャガイモ、ミニトマト、だいこん等の野菜の栽培を行った。種や苗から作物を育て、収穫期には活動の成果として収穫祭を企画し、栽培した野菜を皆で味わい、活動を通して栽培の楽しみや収穫の喜びを得られる機会となった。 ▽就労継続支援B型事業(定員20名) ▼生産活動の機会を通して、就労に係わる知識及び技術の向上を図れるように、利用者一人一人の適性に合わせた配慮を行い、以下の生産活動の機会を提供した。 工賃の支給については下記の生産活動における作業収入から必要経費を差し引いた額を工賃として利用者に還元した。 (1)作業内容 パンフレットの封入作業、箱の組み立て作業、海苔やお茶漬けの袋・箱入れ作業等の受託作業、施設内の清掃作業、リサイクル作業(空き缶回収等) (2)施設外就労 他施設(もなみ学園)の清掃作業、厨房での食器洗浄作業(大友恵愛園)、チラシや広報誌の配布作業 ▼訓 練 就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練を行い、その他の便宜を適切かつ効果的に行った。 ▼実習及び就職活動 利用者の状況に応じて、ハローワーク、障がい者就労・生活支援センター等の関係機関と連携して情報収集に努めた。積極的に施設外就労支援を行う事で、更なる就労意欲、作業技術の向上を図った。	作業活動の充実を図るため、受託作業では新規取引先の開拓に取り組んだ。また、利用者一人一人の適性や意思を尊重し作業内容や工程等を調整して支援した。 箱の組み立て作業、海苔やお茶漬けの袋、箱入れ作業等、多岐に渡る作業を受託して利用者の作業確保と工賃向上に努めた。
▽生活介護事業・就労継続支援B型共通事業 ▼個別支援計画の作成 サービス等利用計画に沿い、エンパワーメントの視点に立った個別支援計画の作成を行った。また、その際、利用者の希望や意向をより正確に把握することに努め、新たに意思決定支援会議を実施した。また家族、関係機関とも日常的に連携、協力し生活状況等を事前に把握する事を徹底した。作成した支援計画は本人の同意を得た上で、計画の内容に沿ったサービスの提供に努めた。 ▼健康活動等日中活動 (1)健康に関する活動	利用者の障がい状況や家庭状況、要望などを的確に把握するため面談を行った。的確なアセスメントに努め、利用者のもつストレスを活かせるような個別支援計画を作成した。

健康維持・増進やダイエット目的として、隔週1回、園内の食堂や市内の体育館を利用して、スポレク活動や軽運動活動を実施した。また、外部講師を招いてフラダンス活動を隔週で実施した。 (2)レクリエーション活動 お盆期間には園内でクイズ大会やモグラたたきゲーム等の余暇活動や、かき氷を提供した。また季節行事として、豆まき等を実施した。 (3)利用者親睦会活動 利用者の自治会活動が適切かつ円滑に運営できるようにサポートし、親睦会行事の新年会や、納会、季節にちなんだ行事運営についても支援を行った。 (4)社会参加活動 外出活動として、ロイズガーデンや白い恋人パーク、青少年科学館等、利用者の希望に合わせて各種外出企画を計画し実施した。 日帰り旅行に関しては、希望する利用者全員で小樽水族館への旅行を実施し、終日見学、昼食を行い楽しんだ。 社会参加への機会を持つことで地域資源の活用や地域の方々との関りを通して、社会的ルールやマナー等の理解を深める機会とした。 ▼相談及び援助 利用者の心身の状況や利用者及びその家族のニーズを把握して、充足されるように適切な相談、助言、援助等を行った。 ▼健康管理 健康診断を年1回、嘱託医による健診を年に1回実施し、その他の必要な管理、記録を行った。歯科健診を年に1回実施し、希望者の健診を行った。 ▼送迎 自力で通所できない利用者や家族の送迎が難しい利用者については、利用者や家族と相談の上実施した。 送迎は4便体制で行った。 ▽障がい福祉に関する情報収集及び提供業務 北海道知的障がい福祉協会、札幌市知的障がい福祉協会の会員として、研修会等に参加して情報収集に努めた。札幌市東区自立支援ネットワークに関しては、議題の内容に合わせて参加を検討し、近隣地域の他事業所と連携して情報共有を図った。 ▽あかしあ学園に関する市民の自主活動及び交流の支援業務 月に1回、地域ボランティア団体によるサロンの開催場所として、あかしあ学園のホール(食堂)を提供した。また、工芸作業での作業ボランティアの受け入れも行った。	各種活動に関しては、利用者の希望に合わせながら季節や年中行事等を反映させ、利用者が楽しめる企画、内容で実施することができた。外出活動についても、利用者の希望を聴きながら、可能な限り個別のニーズにも柔軟に対応した。今後も利用者の希望に添った活動を提供していくことに努める。 その他、社会参加の機会として、「パチンコひまわりファイターズ通り店」の店内にアールブリュットギャラリーを常設していただき、利用者が活動で製作した絵画や刺し子等の芸術作品を展示する等、利用者の活動を知ってもらう機会とした。 ショートステイやグループホーム、送迎サービス等の利用希望が増加傾向であり、都度、相談支援事業所並びにサービス提供機関と連携し、スムーズにサービス利用が出来る様に調整した。 今後も積極的に知的障がい福祉協会や東区自立支援ネットワーク等の研修に参加して情報収集に努めていく。 ふれあいいきいきサロンに関しては、例年、近隣住民や他事業所からの参加もあり、利用者からも好評を得ている活動である。
---	---

	▽あかしあ学園利用者に関する相談業務 あかしあ学園に相談窓口を設けており、施設利用や障がい福祉サービスに関する相談に応じた。また、内容に応じて行政機関や他作業所とも連携し、相談者のニーズに応えた。	今後も取り組みを継続して、適切な対応に努める。																																																				
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table><tr><th colspan="2">札幌市あかしあ学園</th><th>R5年度実績</th><th>R6年度計画</th><th>R6年度実績</th></tr><tr><td rowspan="5">生活介護事業</td><td>延べ人数</td><td>6,477名</td><td>7,290名</td><td>6,658名</td></tr><tr><td>開所日数</td><td>243日</td><td>243日</td><td>243日</td></tr><tr><td>人数/日</td><td>26.7名</td><td>30名</td><td>27.4名</td></tr><tr><td>新規利用</td><td>1名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr><tr><td>退所者数</td><td>1名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr><tr><td rowspan="5">就労継続支援B型事業</td><td>延べ人数</td><td>4,267名</td><td>4,860名</td><td>4,082名</td></tr><tr><td>開所日数</td><td>243日</td><td>243日</td><td>243日</td></tr><tr><td>人数/日</td><td>17.6名</td><td>20名</td><td>16.8名</td></tr><tr><td>新規利用</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr><tr><td>退所者数</td><td>1名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr></table> ▽ 利用促進の取組 高等支援学校からの現場実習や見学、相談支援事業所からの紹介による見学等を積極的に受け入れた。	札幌市あかしあ学園		R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績	生活介護事業	延べ人数	6,477名	7,290名	6,658名	開所日数	243日	243日	243日	人数/日	26.7名	30名	27.4名	新規利用	1名	0名	0名	退所者数	1名	0名	1名	就労継続支援B型事業	延べ人数	4,267名	4,860名	4,082名	開所日数	243日	243日	243日	人数/日	17.6名	20名	16.8名	新規利用	0名	0名	1名	退所者数	1名	0名	1名	令和6年度当初は、生活介護事業に35名、就労継続支援B型事業に20名の登録から始まり、5月に就労継続支援B型事業の利用者1名が生活介護事業にサービス変更し、8月に就労継続支援B型事業に1名が新規利用開始、9月に生活介護事業の利用者が1名退所、10月に就労継続支援B型事業の利用者が1名退所している。 その結果、年度終わりには、生活介護事業が35名、就労継続支援B型事業は19名となった。就労継続支援B型事業利用者(定員20名)は1日当たりの平均稼働率は88.3%、生活介護事業(定員30名)の1日当たりの平均稼働率は91.4%であった。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> ・高い利用率を維持している点は評価できる。	A	B	C	D
札幌市あかしあ学園		R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績																																																		
生活介護事業	延べ人数	6,477名	7,290名	6,658名																																																		
	開所日数	243日	243日	243日																																																		
	人数/日	26.7名	30名	27.4名																																																		
	新規利用	1名	0名	0名																																																		
	退所者数	1名	0名	1名																																																		
就労継続支援B型事業	延べ人数	4,267名	4,860名	4,082名																																																		
	開所日数	243日	243日	243日																																																		
	人数/日	17.6名	20名	16.8名																																																		
	新規利用	0名	0名	1名																																																		
	退所者数	1名	0名	1名																																																		
A	B	C	D																																																			
(6)付随業務	▽ 広報業務 ▼北海道社会福祉事業団のホームページ(http://www.dofukuji.or.jp/)に札幌市あかしあ学園ホームページを作成しており、事業説明やサービス内容・行事の様子等の情報を掲載した。 ▼施設の家族向け広報誌「活動だより」及び学園機関紙「あかしあだより」 「活動だより」は2か月毎に発行した。「あかしあだより」は年2回発行した。 ▽ 引継ぎ業務 (前回からの継続指定のため、引継ぎ業務なし)	個人情報掲載確認を行っており、広報誌に対するクレーム等は見られなかった。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> ・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。	A	B	C	D																																															
A	B	C	D																																																			

2 自主事業その他

▽ 自主事業

当事業所の自主事業ではないが、当法人にて東区北22条東6丁目においてさっぽろ地域生活支援センターが各種事業(生活介護、就労継続支援B型、居宅介護、共同生活援助、地域相談支援)を運営している。あかしあ学園の利用者も自立した生活を送るため、さっぽろ地域生活支援センターが運営するグループホーム6か所から9名の方が通っている。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

・札幌市内、近郊の紙器加工業者等と契約し紙器加工、海苔やお茶漬け等の袋・箱入れ作業、チラシ折り、パンフレットの封入、シール貼り等の受託を行った。

・施設外就労として清掃作業、ポスティング、食器洗浄作業を受託しており、日々10名～12名の利用者が作業を行った。

今後も継続した取り組みを実施していく。

今後も契約業者の開拓を行い、取引先、受注作業の獲得を図る。

A

B

C

D

・適正に事業を実施している。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法

実施機関 令和6年12月3日～令和6年12月19日
(1)対象者及び人数
利用者又は家族 54名
(2)調査の方法
調査票を各家庭に配布し、記入後学園へ提出。
(3)回収状況
回答者 52名(回収率 96%)

結果概要

3 各質問項目の意見欄結果
(1)当施設の総合満足度に関するアンケート
質問1「ご家族に利用者の方の情報は連絡ノートや電話連絡等で細やかに正確に伝わっていますか。」
「満足、やや満足」を合わせると、98%の満足度となる。

あかしあ学園の対応としては、定期的なプリントや日々の連絡ノートにて、情報伝達を行い、緊急時等の連絡については、電話や玄関への手紙投函にて迅速に対応している。
質問2「個別支援計画の作成やモニタリングの内容は利用者の方の要望や状況に応じて適切に記載されていますか。」

「満足、やや満足」を合わせると、98%の満足度となる。

今年度も4月から5月にかけて個別面談を実施している。その他、各種相談については、都度面談の機会をつくり、相談支援事業所とも連携しながら状況確認を行い、必要な福祉サービスへの引継ぎを行っている。送迎ニーズの増加に伴い、定期的に送迎ルートを改編しながらピストン運行を実施し、送迎対応数の増加に対応している。

回答者は52名、回収率は96%であった。

今回も「総合満足度」と職員の接遇についての満足度の項目に分けて、それぞれ5項目、合わせて10項目の調査を実施した。
調査結果としては、総合満足度については「満足」「やや満足」を合わせた満足度は98%の評価をいただき、接遇面についての総合満足度についても98%の評価をいただいた。
日頃の支援の積み重ねが評価されたものと感謝するとともに、今後も適切な学園運営に努めていく。

A

B

C

D

・要求水準を10%以上超える満足度であり、特に高く評価できる。

質問3「各種活動への参加を通して、日頃の生活の励みや充実につながっていると感じますか。」

「満足、やや満足」を合わせると、96%の満足度となる。

あかしあ学園では、充実した生活が送れるように作業活動の他、各種行事や活動等、サービスにバリエーションを持たせて提供している。特に、外出余暇やスポーツ活動、芸術文化活動等、様々な嗜好に応え心身ともにリフレッシュできるよう活動内容を工夫している。

質問4「日常の健康管理や安全面に配慮した環境が整えられていると思いますか。」

「満足、やや満足」を合わせると98%の満足度となる。

各種感染症の予防の為に、定期的な館内消毒並びにマスクの着用、手指消毒、検温を引き続き励行している。また、転倒等の事故対策として、館内の整理整頓や必要な箇所の見守り対応に心がけながら、事故予防に努めている。

質問5「あかしあ学園の総合的な満足度はいかがですか。」

「満足、やや満足」を合わせると98%の満足度となる。

あかしあ学園では、作業活動並びに各種余暇活動を通して、メリハリのある生活が送れるように多岐に渡るプログラムを準備している。また、各種行事は地域の方々との交流の機会ともなっており、利用者の社会参加の機会となっている。

ご家族とは、個別面談や全体説明会等で意見交換し交流できる機会を確保し、ご家族の思いも利用者支援や学園運営に反映していけるように心掛けている。

(2)職員の接遇についての満足度に関するアンケート

質問6「職員は利用者の方に丁寧な態度や言葉遣いで接していますか。」

「満足、やや満足」を合わせると98%の満足度となる。

利用者の個性や主体性を尊重しつつ尊厳が守られるように、虐待予防の取り組みとして、「どうしたの？目を合わせ寄り添う態度で共感し、行動の結果より理由に関心を持ちましょう！」というスローガンを掲げ、毎日の打ち合わせの時間に声を出して確認している。また、各種研修会の参加を通して、職員のスキルの向上を図っている。

他の項目を見ても、全項目で「満足」「やや満足」を合わせた満足度は90%台後半と高評価をいただき、「不満」という回答はなかったが、引き続きサービスの向上に努めていく。

利用者の今後の生活に関する相談事については、相談支援事業所と連携し情報共有を図っている。セルフプランから相談支援事業所の計画相談への変更を希望される相談も増加している。

ショートステイや行動援護サービス等の利用希望が増え、今後も家族や利用者の高齢化や重度化等により、更なる各種サービスのニーズの高まりが予想され、今まで以上に関係機関と連携を取りながら、様々な相談ニーズに対応できるよう、ネットワークを広げていく必要がある。

各種感染症対策は必要に応じて緩やかに継続して実施している。体調の変化等は随時家族に連絡し、早期に対処するよう心掛けている。

質問7「職員は利用者の方の話をよく聞き、気持ちの理解に努めながら、個々の状況に合わせた対応を心掛けていますか。」

「満足、やや満足」を合わせると98%の満足度となる。

利用者が抱える悩みに寄り添いながら、受容と共感の姿勢を心掛けている。利用者構成としても平均年齢も徐々に高まっていることから、健康面での配慮の必要性も高い。常勤配置している看護師と連携しながら、健康観察に留意し、また、家庭、関係事業所等とも情報共有しながら、重層的な支援体制の構築に努めている。

質問8「職員はご家族が来所した際、ゆっくり話ができる雰囲気作りに配慮していますか。」

「満足、やや満足」を合わせると96%の満足度となる。

個別面談並びに家族説明会等、ご家族の意見を聞く機会を設けている。その他、あかしあ喫茶や夏まつり等は、ご家族も一緒に楽しめる行事として、普段の支援の様子を見て頂く機会ともなっている。

質問9「職員は利用者の方の名前や写真掲載等の個人情報の扱いについて適切に行っていると思いますか。」

「満足、やや満足」を合わせると96%の満足度となる。

「写真・名前の掲載に関する調査」を定期的を実施し、学園からの発行物については、この調査結果を基に、使用する個人情報を管理している。また、学園で保管している個人情報を含む書類及びデータに関しても、施錠できる環境で保管している。

質問10「接遇に関する総合的な満足度はいかがですか。」

「満足、やや満足」を合わせると98%の満足度となる。

利用者が生き生きと学園生活を過ごせるように、その個性を尊重しながら公正・公平なサービスが提供できるように心掛けている。人権擁護に関わる研修会を定期的開催し、職員の資質並びに支援技術の向上に努めている。また、利用者にとって最も身近な援助者であるご家族の思いも汲み取りながら、各関係者との協力関係も築いていけるように心掛けている。

職員の接遇に関しては、虐待防止の観点からも常に利用者に寄り添い、ゆとりを持って関りが持てるよう配慮している。

個人情報についても、個人情報保護法を遵守し、プライバシーが保たれるよう適宜確認し、細心の注意を払いながら取り扱いしている。

利用者からの意見・要望とその対応	(意見・要望) ・毎日の学園生活が楽しみで登園できることに感謝しています。何かと問題のある子を優しく見守って下さり、ありがとうございます。言葉の無い分、思ったことが伝えられず、本人も大変ですが職員の方々もご苦労もあると思います。それでも学園が楽しい所と思い日々通園でき、他の利用者との関係からも自分の居場所と思って過ごせている事に感謝しています。今年は外出活動もあって良かったです。今後ともよろしくお願いします。 ・家族には日頃、学園内ではどのような事が行われているのか詳しくは分かりませんが、本人が毎日毎日行きたがる姿を見ていると楽しくて満足している証拠だと思います。大変な事もあると思いますが、これからもよろしくお願いします。 ・色々と迷惑をかけていることと思いますが、毎日通園をする事で休日を楽しみにしているので、生活にメリハリが出来て本当に感謝しています。年齢的な事もあり、いつまでこの生活が続けられるか不安にもなりますが、よろしくお願いします。 ・学園の様子は細かくノートに記載してくれるし、レクリエーションも充実しているので、毎日楽しく通所できますし、親も安心して通わせることができます。 ・あかしあ学園に通う事が励みになっていて、皆さんと楽しく仕事に取り組んでいます。今年は外出活動にも参加できて有意義な1年でした。給食も楽しみにしています。1年間ありがとうございました。 ・遠くから家庭の事業で利用させて頂き、娘も喜んで通わせてもらい感謝しています。職員も皆さん優しくて、あと少しで一年ですが、名前も覚えた様です。夏祭りのフラダンスも良かったですし、新年会も楽しみにしています。要望としては、以前の事業所では工賃が250円で食事代が210円となっており、自分の工賃でやっていけるようになっていましたが、あかしあでの食事代が高いのは、美味しいものを食べているので良いのですが、工賃を引き上げる事ができれば良いと思いました。あと、できれば天気の良い時に班ごとで外へ散歩に行けたら良いと思いました。身体作りも歳を取っていくと大事なので、フラダンスの無い週にボール投げやヨガ等を室内でできたらと思います。 (対応) 各種サービスの活用に関しては、相談支援事業所の相談員と連携しつつ、心配事が解消されるように、迅速に仲介している。 個々のニーズを拾いながら、個々の状況に合わせた支援を行っている。ご家族からの要望についても、都度返答しながら、信頼関係の構築に努めている。 対面による家族説明会を3月14日に開催し、15名の家族が参加されている。 個別支援計画の様式を一部変更しており、本人にとってわかりやすい様式に変更したことを説明している。	自由回答の欄では、通常の学園生活や色々な活動に対して感謝や好意的な意見が多く見られた。 学園で行われる行事等にご家族や地域の方々が参加され、コミュニケーションの場として様々な交流や、関わりを持つ事が出来た。 年度初めには、家族との個別面談を実施し、グループホームや居宅介護、行動援護等のサービス利用の希望があった際は、関係機関とスムーズにサービス利用に繋がられるよう調整すると共に、学園以外での生活の様子や、家族の悩み等を聞く事により、利用者や家族に寄り添った支援を心がけるよう努めた。 今後も生活の基盤として事業継続をしながら、様々な相談に応じ、関係機関と協力しながら、高齢化や重度化等の変化に対応していく。
-------------------------	---	---

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)
収入	124,752	125,317	565
指定管理業務収入	124,752	125,317	565
指定管理費	0	0	0
給付費	117,764	118,134	370
利用料金	0	0	0
その他	1,118	1,230	112
生産活動・就労生産事業収入	5,870	5,953	83
自主事業収入	0	0	0
支出	103,917	101,639	▲ 2,278
指定管理業務支出	98,048	95,687	▲ 2,361
生産活動・就労生産事業支出	5,869	5,952	83
自主事業支出	0	0	0
収入-支出	20,835	23,678	2,843
利益還元			0
法人税等			0
純利益	20,835	23,678	2,843

▽ 説明

項目等は表のとおりであり、概ね計画通りの結果となった。

A

B

C

D

令和6年度当初は、生活介護事業に35名、就労継続支援B型事業に20名の登録から始まる。5月に就労継続支援B型の利用者1名が生活介護事業へサービス変更、8月に就労継続支援B型事業に1名新規利用開始、9月に生活介護利用者1名が退所、10月に就労継続支援B型事業の利用者1名が退所している。その結果、年度終わりには、生活介護事業が35名、就労継続支援B型事業が19名となったが、利用者の高齢重度化による認定区分の変更や重度障害者支援加算取得者が増えたことが、収入増という結果になった。

・計画を上回る収益となっており、安定的な運営が図られている。

・収益を活用し、更なる支援の質の向上に努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持		適	不適
当法人は道内に入所施設(児童・成人)3か所、地域生活支援センター5か所、通所施設6か所(あかしあ学園含む)他共同生活援助事業、居宅介護事業、相談支援事業等、多くの事業所を持ち、安定した運営を維持した。		・安定した運営を保持している。	
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適	不適
各条例、規定に則り全て適切に対応した。		・各条例を遵守し、適正に対応している。	

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
札幌市あかしあ学園は指定管理4期目に入り、平成22年度から通算15年目となる。今年度においても利用者、家族、地域の方々から信頼を得られるよう、透明性の高い管理、運営に努め、前年度からの重点取り組み事項を優先して運営に充たった。	令和7年度も、あらためて札幌市障がい者保健福祉の計画目標を念頭に、あかしあ学園の設置目的である「社会生活・職場生活等それぞれの生活の場で社会的に自立できるように援助すること」の実現に向け利用者の日常生活と社会生活能力、働く意欲と技能、自立能力の育成と向上に努める。
▼利用者の虐待防止と権利擁護の遵守に努め、障害者虐待防止法、障害者差別解消法、権利擁護について内部研修を実施し、外部研修にも積極的に参加して職員の意識向上に努めた。法人の職員倫理綱領の読み合わせを定期的に行い、平等利用確保の取組チェック並びに虐待防止の重点目標を毎朝夕の引継ぎで唱和し職員全員で確認した。また、「虐待や不適切な支援をなくすための小テスト」を実施し、職員の日頃の支援について、管理者が確認、助言等を行って適切な支援の構築に努めた。	▼利用者の虐待防止と権利擁護の遵守に際し、障害者虐待防止法、障害者差別解消法、権利擁護に関する研修を定期的に行う。外部の研修にも積極的に参加して、伝達講習等において職員全員の意識熟成に努める。法人の職員倫理綱領や平等利用確保の取り組みチェックの確認、読み合わせを定例で行って、継続して実施する。虐待防止の取り組みとして「虐待や不適切な支援をなくすための小テスト」を実施するとともに、管理職との面談を通し、各職員の虐待防止意識の浸透度を確認する。
▼個別面談等でアセスメントを行い、障がい状況やニーズを把握して、利用者個々のストレングスを大切に支援計画を作成、それに基づき一人一人の計画、目標に合わせて自己実現が達成できるように努めた。作業以外の健康活動や創作活動、外出活動等の日中活動については、引き続き各種感染症予防に努めながら実施した。また、各種行事等におけるボランティアの受け入れも行った	▼利用者のニーズやストレングスに沿った個別支援計画を作成し、エンパワメントの視点に立ったサービスの提供に努める。作業を活動の中心に置きつつ、利用者の日々の楽しみとして健康活動や創作活動、外出活動等の日中活動の充実を図る。各種感染症に引き続き留意しつつ、安心、安全な活動の機会を提供し、利用者本位の充実した内容が展開できるように創意工夫し、ボランティアを積極的に受け入れ、「地域に開かれた施設」として地域貢献が図られる様に取り組んでいく。
▼利用者の安定した作業の確保と工賃向上については、工賃向上計画に沿って様々な取り組みを行った。昨年度に引き続き、受託作業並びに施設外就労は、年間を通して安定的に作業活動を維持する事が出来た。また、物価の変動に合わせて取引業者との単価交渉を行いつつ、状況に応じて受注量を調整する等作業の効率化を図った。	▼利用者の作業確保と工賃向上の為、新たな取引業者の開拓、作業の受注、就労継続支援B型事業においては受託作業の収入向上を図り、平均工賃アップを目指す。全体の作業効率を上げながら、利用者の適性やニーズに添った作業内容の提供や支援に努めると共に、正確な製品管理維持を心掛け、委託業者からの信頼向上を図る。

▼生産活動では、工芸製品全体の売り上げを分析し、販売価格の見直しや新製品の開発に努めた。即売等の機会があれば可能な限り参加しつつ、新たにネット販売や景品カタログ販売等を行う事で、販路拡大に努めた。製品管理を徹底する事で顧客の信頼向上を図った。	▼作業以外の活動として生活介護利用者には創作活動や農園活動、共通のスポレク活動や外出活動を提供して、利用者のニーズに合わせた内容を検討し、より利用者が楽しめるものとなるよう努める。
▼グループホームから通所している利用者も多く、グループホームを運営する各関係事業所と連携を図る事で、利用者の生活状況の把握に努め、昼夜一環しての支援に努めた。また、相談支援事業所と連携しながらサービス等利用計画の作成やグループホームの体験利用等の相談にも対応した。	▼あかしあ学園利用者のうち、各種サービスの利用希望については、各種関係機関と連携し利用者・ご家族のニーズ充足に努める。
▼職員研修体制の充実については、年間研修計画を作成し、ZOOM等のリモート研修を活用しながら計画的に参加した。また、法人内の階層別研修のほか、札幌市知的障がい福祉協会、社会福祉協議会等が開催する外部研修等に積極的に参加した。	▼職員の専門性や資質向上に向けて、事業所内での研修会を実施する。また、法人内での階層別研修、札幌市や知的障がい福祉協会、社会福祉協議会等が開催する外部研修にも積極的に参加し、個々の研鑽に努めるとともに、伝達講習会を実施し、施設全体としてのスキルアップを図る。
指定管理通算15年目となり、札幌市からの支援をいただく中で、より適切な運営を心がけ、利用者、家族、地域住民等に質の高いサービスの提供ができるように努めた。 満足度調査の結果では接遇面についての満足度は昨年度97.9%から98%となり、さらに総合満足度についても昨年度の97.9%から98%と引き続き高い水準を維持している。 各種感染症の予防に留意しつつ、リスクマネジメントに取り組みながら事業運営を継続するとともに、公共の福祉サービス事業所として、家族、利用者、地域住民や関係機関等と連携、協力するなかで、安定的な作業活動等を確保、提供し、利用者のニーズに合わせた日中活	

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
・収支状況が良好であり、安定した運営が図られている。 ・安定した利用者数を維持しており、地域貢献や人材育成などの適正な事業を実施している。 ・利用者や保護者との信頼関係が構築されており、利用者アンケートについて高評価を維持していることは、要求水準を大きく上回っており評価できる。	・引き続き、利用者処遇の向上に努めること。 ・収益を活用し、更なる支援の質の向上に努めること。